

## 豊かな海づくりに向けての今後の市の対応について

### 1 経緯

近年、瀬戸内海における貧栄養化の課題があり、豊かな海づくりを目指す観点から、谷八木川の環境基準点の変更等に関する請願が市議会で採択されました。

しかし、環境基準の測定地点を現在の位置より上流に移動したとしても、谷八木川の水質基準が変わるものではないため、大久保浄化センターの栄養塩類管理運転が大幅に変更できることにはつながらないことが判明しました。

そこで、この度、豊かな海づくりの実現のため、本市の公共用水域の環境基準達成状況の評価方法を変更することで対応しようとするものです。

### 2 市の対応

#### (1) BOD測定値の採用方法の変更について

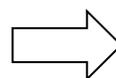
公共用水域の環境基準評価対象である生活環境項目「BOD」測定値については、これまでC-BOD(水の汚れの目安である有機物の分解に必要な酸素の量)とN-BOD(栄養塩類の素である窒素成分の分解に必要な酸素の量)の合計であるT-BOD(総計:Total)の値を採用していました。

この度、更なる栄養塩類の供給に取り組むため、水の汚れの目安となるC-BODのみを削減することを目標とし、環境基準達成状況の評価方法を、C-BODのみ測定値として採用するように変更します。

なお、引き続き谷八木川において水質汚濁状況を監視し、生活環境が悪化しないように環境基準達成状況を確認していきます。

【現行】T-BOD (C-BOD + N-BOD)

C-BOD (炭素: Carbon) 水の汚れの目安	N-BOD (窒素: Nitrogen) 栄養塩類の素の一つ
----------------------------------	--------------------------------------



【変更後】C-BOD

C-BOD (炭素: Carbon) 水の汚れの目安
----------------------------------

BODとは、水中の微生物が有機物を分解するときに消費する酸素量をもって、水中に存在する水質汚濁物質の量の指標としたものです。

#### (2) 大久保浄化センター放流水の窒素濃度の変更について

海域への栄養塩類供給拡大を図るため、大久保浄化センター放流水の窒素濃度を高め、現状より倍増させます。今年度、速やかに試行運転に取り組み、窒素濃度の上昇とそれに伴う放流水の変化を確認し、来年度からの本格実施に備えます。

【総窒素濃度】

現状値: 8 mg/L

管理目標値: 16 mg/L 程度

### 3 スケジュール

2020年12月	窒素増量運転への準備開始(概ね1か月必要)
2021年1月頃	水質状況を見ながら徐々に窒素増量の試行運転を開始
2021年4月~	測定値を変更し、窒素増量運転を本格実施